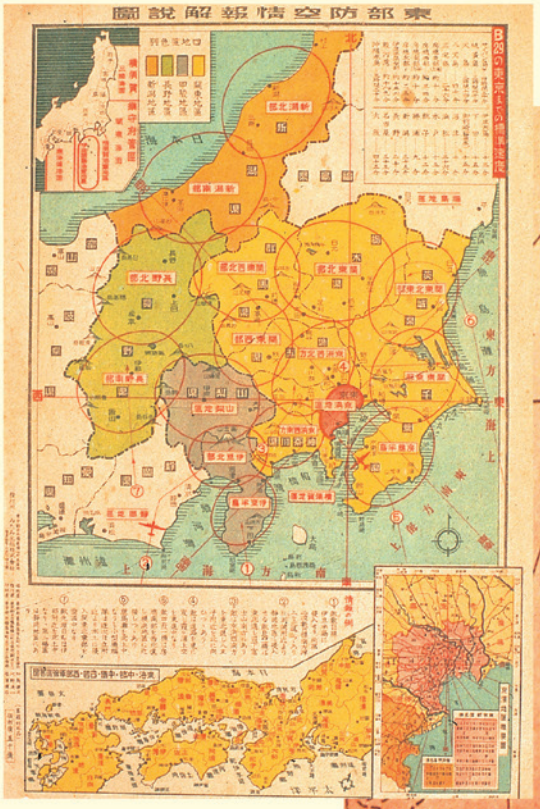
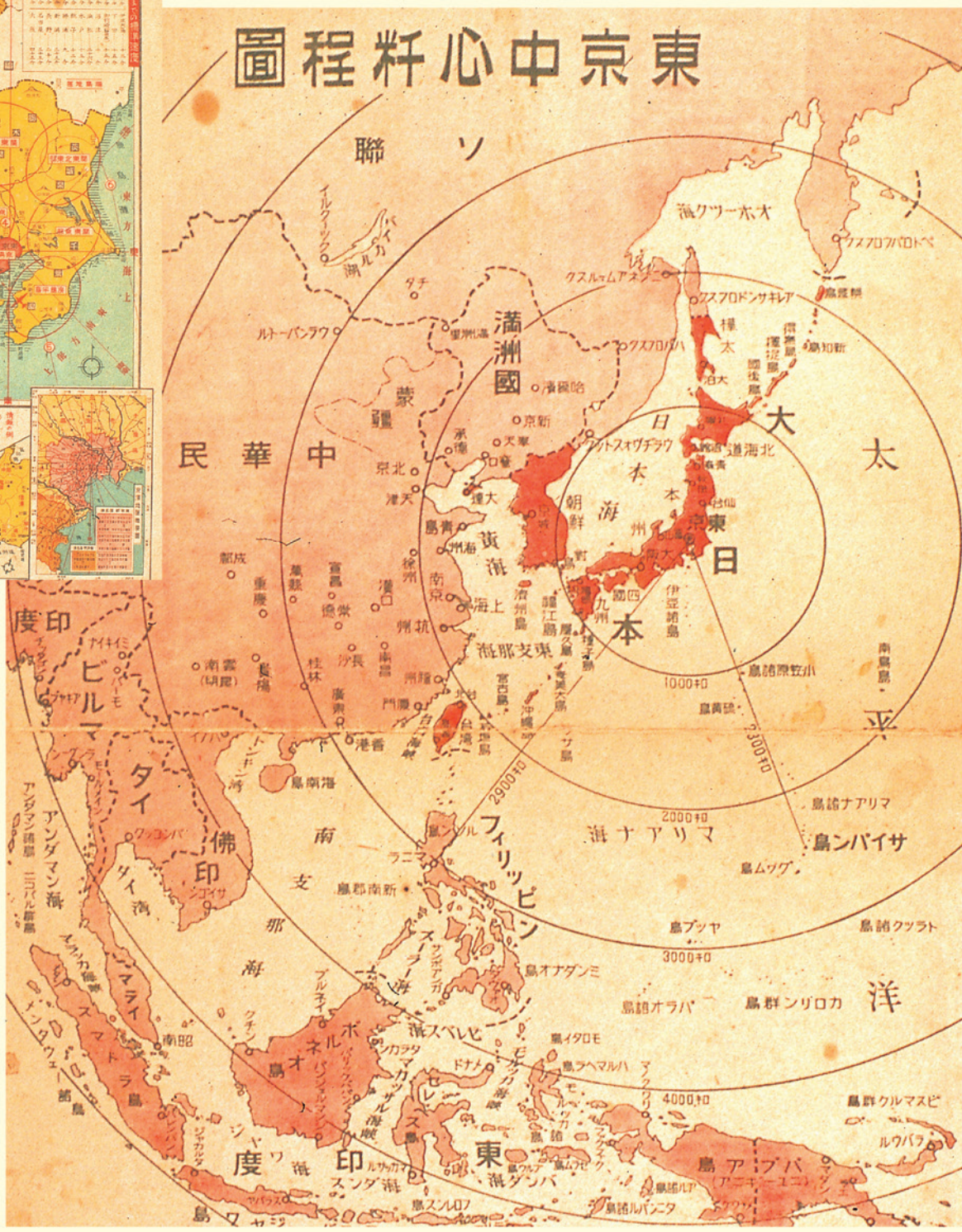
4 千葉空襲

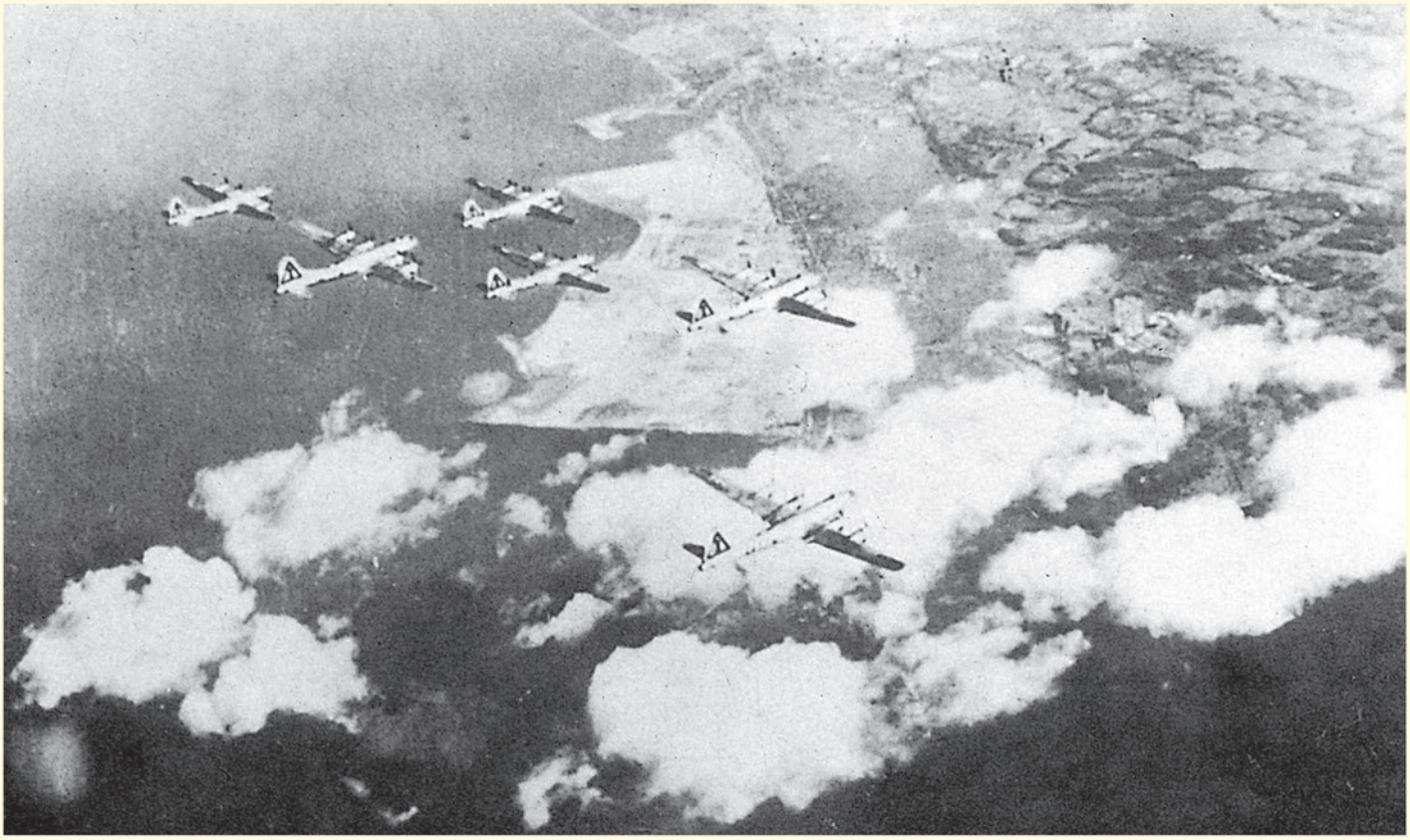
昭和19年（1944年）7月から8月にかけて、米軍がマリアナ諸島（サイパン、グアム、テニアン）を占領して以来、マリアナ諸島を飛び立つ米軍のB29による本土空襲は、主要都市（東京（3/10）・大阪（3/13～14）・神戸（3/17）・名古屋（3/19、3/24～25、6/9）・川崎（4/15）・横浜（5/29））から始まり、次第に地方都市へと及び、本土の無差別爆撃となりました。

千葉市への大空襲は数度ありましたが、米軍が千葉市を目標とした空襲は、昭和20年（1945年）6月10日と7月7日（七夕空襲）です。2度の空襲により、中心市街地（約330ヘクタール）の約7割（231ヘクタール）が焼け野原となり、死傷者1,595人、被災戸数8,904戸、被災者4万1,212人に及びました。
参考：昭和20年12月末日の人口は、9万5,903人





東部防空情報解説図
（左上／表面、右／裏面）
昭和19年（1944年）11月、「スーパーフォートレス（超空の要塞）」と呼ばれたB29による日本空襲が開始されました。B29はただ一機で、サイパン島・東京間往復4,560kmを飛行しました。昭和20年（1945年）2月10日の新聞にこの図が発表になると、またたく間に各戸へ浸透していきました。大きさは壁に貼るものから名刺大までさまざま。国民はラジオでB29の情報を聞きながら、この図を見て進路を判断し、自分の行動を決めました。
＜中央区亥鼻　清水啓次氏寄贈＞



千葉市上空を飛ぶ米軍機B29の編隊（撮影日不詳）〈写真提供：千葉市空襲を記録する会〉

現在の千葉市上空　令和5年（2023年）2月22日撮影

千葉空襲・戦災体験談（千葉市のホームページ）▶

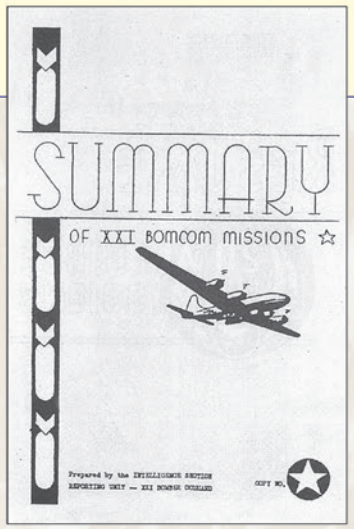
昭和20年（1945年）6月10日

空襲の状況

午前7時45分から同46分にかけての一瞬の攻撃でした。グアム北飛行場を飛び立った27機のB29による日立航空機千葉工場（現在のJFEスチール東日本製鉄所 千葉地区付近）を目標とした500ポンド通常爆弾（138.2トン）による攻撃でした。

米軍資料
作戦任務第198号

1	日付	1945年6月10日
2	目標	日立航空機会社千葉工場　90.14－2145
3	参加部隊	第314航空団（グアム北飛行場）
4	出撃機数	27機
5	第1目標爆撃機数の割合	96. 5%（第1目標26機）
6	爆弾・信管のタイプ	AN－M64　500ポンド通常爆弾－ 1／100秒延期弾頭、無延期弾底
7	投下爆弾トン数	第1目標138.2トン
8	第1目標上空時間	6月10日7時45分～7時46分
9	攻撃高度	15,600～17,200フィート
10	目標上空の天候	10／10
11	損失機数合計	0機
12	作戦任務の概要	弾着写真によると、3飛行隊（Squadrons）が目標を攻撃。写真から工場に損害がないことが明らか。敵機16機視認、攻撃回数なし。敵機に与えた損害の申告なし。対空砲火は重砲、薄弱で不正確。B29の5,000フィート下にP51と思われる数機が見られた。2機のB29が硫黄島に着陸。平均爆弾搭載量11, 754ポンド。平均燃料残量1,026ガロン。

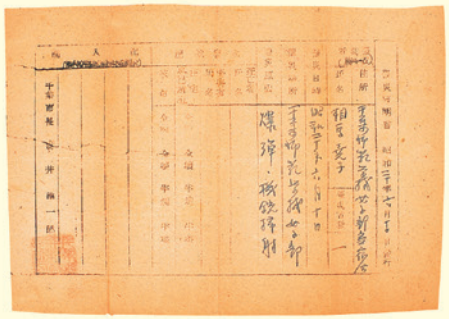


この資料は、マリアナ基地（サイパン、グアム、テニアン）のアメリカ陸軍航空隊B29部隊の「作戦任務要約」（Mission Summary）です。

1フィートは0.3048メートル、約0.3メートル。1マイルは約1.61キロメートル。1平方マイルは2.59平方キロメートル。
1ポンドは約0.45キログラム。1ガロンは約3.8リットル。

出典　小山仁示訳『米軍資料日本空襲の全容』－マリアナ基地B29部隊－　東方出版　平成7年（1995年）

空襲資料



罹災証明書　（昭和20年〔1945年〕6月10日の空襲）
〈寄贈／長門堯子氏（船橋市）〉

爆弾の破片で裂けたアルバム
（6月10日の空襲で被弾・倒壊した千葉師範学校女子部の寄宿舎跡から掘り出された）
〈資料提供／岩梨泰子氏（中央区新千葉）〉

被害の状況

この空襲による被害地域は、同工場の一部と蘇我町一丁目付近、そして目標から外れた新宿・富士見・新田町・新町付近で、死傷者391人、被災戸数415戸、被災面積26ヘクタールに及びました。

被害を受けた主な施設は、省線千葉機関庫（現在のJR千葉駅付近）、千葉師範学校女子部、県立千葉高等女学校など。

日立航空機千葉工場　（昭和21年〔1946年〕2月28日 米軍撮影）

あの時

中西　百合

昭和二十年六月十日の朝八時近く、小きざみにひびくウウッ、というサイレンの音。また、空襲警報が発令されたのです。校舎の長いろう下を全力で走りぬけ、附属小のわきの壕へ飛びこみました。と同時に地鳴りのようなごう音。思わずふり返った時、超低空でせまってくる巨大なB29のすがたが目に入りました。ハッとしてふせたのと、ドドーン、バリバリという地響きがして、真っ暗になったのが同時でした。

気がついた時、自分が生きているのか死んでいるのか全然わかりませんでした。あたりは物音ひとつしません。この壕に友達がいるはずなのに、その気配さえ感じられないのです。だいぶたってから、思い切って声を出してみました。「みんな生きてる？」すると「生きてるよ。」とだれかの声が帰ってきました。やっと助かったのだと思いました。「助かったんだね。」「よかった。」「出てみようよ。」口々に言いながらつぶれた壕からはい出しました。私達の目にうつったのは、もうもうと立つ土煙の中に、バラバラにさけて木くずとなった木造校舎の長い山でした。その中ほどにくずれかけた附属小のげんかんが、タイルのかべをぶら下げてやっと残り、見えるはずのない京成電車の線路の土手が、すぐそこに見えていました。

運動場に出た時、私達はあっとおどろいてしまいました。大きなすり鉢穴が、ボカボカと口をあけています。まるで月面のクレーターそっくりです。先生に言われて、図書館の大事な書物などをかかえて、すり鉢穴を右へ左へとよけながら、こわれなかった附属小の体育館に何度も運びました。

そのうち、亡くなった友達と、行方不明の友達が二人もいることがわかりました。手分けしてさがしたのですが見つかりません。「確かここに防空壕あったんじゃない？」とだれかが言いました。見つからない友達の一人は、そこに一番近い部屋にいたはずでした。もしかしたらとわずかな望みをかけて、救援の兵隊さんがほったら、友達がうつぶせで見つかったのです。だき起こすと、色白のほおにはまだ赤みが残っています。大急ぎで人工呼吸を始めました。「糸子さん。」「糸ちゃん。」と、ひっきりなしに呼びかけながら、一時間以上は続けたように思います。でも、ほおに紅をさしたまま、とうとう生き返ってはくれませんでした。もう一人の「富士子」さんは、くずれたタイルの下に三日間もうまっていたのです。「私はここよ」と送り続けられたサインは、かべやタイルの間からのぞいていた、ほんの少しのもんぺの布地だったのです。

私達は、「あの時」自分がどんな行動をとったのか、おぼえていないことが多くありました。何年も後になって作った文集で、だれがどんな体験をしたのかを、やっと知ることができたのです。

出典　「わたしたちはわすれない　～平和への願いをこめて～」　ちば市教育文化センター　千葉市教職員組合　平成9年（1997年）

昭和20年（1945年）7月7日

空襲の状況

午前1時39分から3時5分までの攻撃で、「七夕空襲」とも呼ばれています。テニアン西飛行場を飛び立った129機のB29による千葉市街地を目標にした夜間の焼夷弾（889.5トン）の投下による無差別攻撃で、中心市街地は火の海と化しました。

米軍資料
作戦任務第251号

1	日付	1945年7月6･7日
2	目標	千葉市街地
3	参加部隊	第58航空団（テニアン西飛行場）
4	出撃機数	129機
5	第1目標爆撃機数の割合	95.48%（第1目標124機、臨機目標1機）
6	爆弾･信管のタイプ	AN-M47A2　100ポンド焼夷弾　瞬発弾頭。 E46　500ポンド焼夷集束弾　目標上空5,000フィートで解束するよう弾底セット。 T4E4　500ポンド破片集束弾　投下1,000フィートで解束するよう弾頭セット。
7	投下爆弾トン数	第1目標889.5トン、臨機目標6.3トン
8	第1目標上空時間	7月7日1時39分～3時5分
9	攻撃高度	9,900～11,500フィート
10	目標上空の天候	10／10
11	損失機数合計	0機
12	作戦任務の概要	搭乗員への質問から、目標地域で点々と火災が起こりはじめ（scattered fires were started）、煙が25,000フィートまで上昇してきたことが判明。偵察写真によると、千葉の市街地の43.4%（0.86平方マイル）を破壊、または損害を与えた。5機が目視により、残りがレーダーにより爆撃。4機が無効果出撃。遭遇した対空砲火は重砲、中口径、小口径、皆無ないし貧弱、不正確。敵機18機視認、攻撃回数1。14機のB29が硫黄島に着陸。平均爆弾搭載量14,974ポンド。平均燃料残量842ガロン。

出典　小山仁示訳『米軍資料日本空襲の全容』ーマリアナ基地B29部隊ー　東方出版　平成7年（1995年）

空襲資料

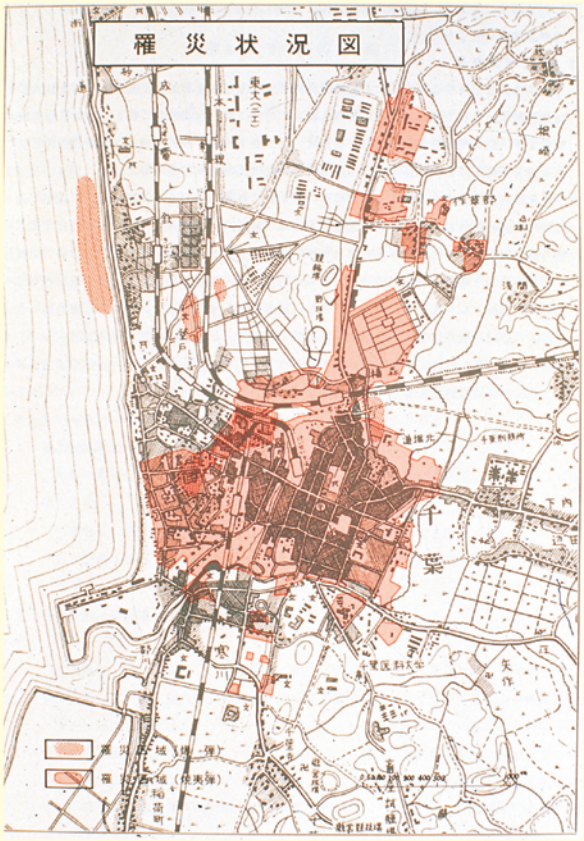
焼夷弾

焼けた銅貨

焼け跡からの懐中時計
（7月7日の空襲）

焼け焦げた通信簿
（7月7日の空襲）

〈すべての資料提供／金親兼弘氏（中央区院内）〉



「千葉戦災復興誌」昭和55年(1980年)
千葉県発行

罹災区域(爆弾)
罹災区域(焼夷弾)

被害の状況

この空襲により、中心市街地の大部分が焼き尽くされ、死傷者1,204人、被災戸数8,489戸、被災面積205ヘクタールに及びました。

被害を受けた主な施設は、千葉地方裁判所、千葉郵便局、千葉鉄道管理部、省線千葉駅、同本千葉駅、京成千葉駅などのほか、鉄道第一聯隊(椿森)、気球聯隊(作草部)・歩兵学校(天台)、千葉陸軍高射学校(小仲台)などの軍事施設。

私の空襲体験 ―平和への願いをこめて―

伊藤 栄子

私は千葉市の空襲（昭和二十年七月六日～七日未明）で、当時中心地だった本町で被害を受けた一人です。その日午後八時三十分から九時ごろにラジオで房総南端にB29が侵入したと空襲警報の発令がありました。その時とっさの見通しというか判断がつかなかった自分のにぶさを今でも時々思いおこします。「まさか自分の家は。」というあまい考えがいざという時の用意を最後までさせませんでした。

アメリカ軍機が千葉市めがけてやってきたその時、家中のカギをしめ、出ていいものかどうかとまよっていました。それでも不安な思いで家を出て、千葉神社ににげ場を求めることにしました。千葉神社は今の二倍くらいの境内で大きな防空壕がふたつありました。多少の不安がありましたが、ここにいれば安全だろうと考えていました。爆弾や焼夷弾の威力はそのくらいのひなん場所ではとてもにげ切れるものではないことをはじめて知りました。鳥居の近くに防空壕がふたつあり、人々はうろたえまよいながらひなんしていました。

しばらくすると爆弾が落ちはじめました。「ヒューッ」「ドカーン」と、ものすごい音でした。自分の頭か背中に落ちてくるようで瞬間目をつむり、地面にふせました。「ああ自分もこれで終わりか。」と恐怖でぶるぶるふるえました。爆弾の恐怖が少しやんだと思ったら、今度は焼夷弾が落ちはじめました。防空壕にいるべきか外に出た方がよいかさんざんまよって外に出ることにしました。まごまごしながら、いま思えばバラバラ落ちる焼夷弾によくぶつからなかったものだと思うほどでした。

青白い炎が地面から吹きあがり、燃えるものすべてに燃え移り、たちまちにして一面火の海となり火のかべの中にいるような状態になりました。やっと鳥居の近くの小さな石塀に身をよせましたが、火は猛烈な風をひきおこし、台風なみの勢いで荒れ狂いました。私の服にも火が付き、母が夢中でもみ消してくれました。わりあい薄い服だったので体にも火が付いていました。小さな石塀に身を寄せ、火をよけながら、右腕で顔をかばい、必死の思いで夜があけるのを待ちました。その時、体中にかなりのやけどをしていたことが後でわかりました。

翌朝、生き残っていた人達がいっせいにどこからともなく出てきて、お互いに名乗りあっていました。母が私の体を心配して救急車を呼んでくれました。救急車といっても軍用のトラックに幌がかけてあるものです。千葉神社から今の国立千葉病院（当時の陸軍病院）まで一時間かけてたれさがった電線をかきわけながらやっと木造のきたない病院に着きました。入院を希望すると、大学病院に移りました。

治療を数週間受け、文字通り九死に一生を得ることが出来ました。そして今日にいたっています。こうした体験者はだんだん少なくなっていますが、戦争の惨禍は二度とくり返してはなりません。だから平和を願う気持ちは今でも私の心からはなれることはありません。

出典　「わたしたちはわすれない　～平和への願いをこめて～」　ちば市教育文化センター　千葉市教職員組合　平成9年(1997年)